

12. 文化・芸術

	タイトル	意見等
1	徳島文化芸術ホールについて	県立ホールの参考のために同じ規模のホールのある枚方の施設を「この規模のホールでどんな公演ができるか」の検証を目的に視察されたということですが、そうではなく、「どんな公演をしたくて、そのためにどんな規模・形のホールが必要か」という発想で考えて欲しいです。 まず、何を観たいか、何をやりたいか県内外の声を募り、識者の意見も伺い、ざっくり中身のイメージを作ることが肝要だと思います。 徳島には自然、食、伝統文化、人の温かさなど様々な魅力があります。世界的に有名な企業もぼちぼちあります。無いのは、県民はもちろんのこと、他県からも来たいと思わせる「劇場」。それだけです。これが揃えば、徳島県に残りたいと思う若者も増えると思います。 阿波おどりを生んだ徳島の芸術的ポテンシャルは、県民の皆さんが思う以上に高いと、外に出た元県民として確信します。良いアーティストに来て頂くこと、そして、この徳島の地で新しい芸術を創造して発信すること、そんな場になるような、魅力に溢れた「徳島文化芸術ホール」の誕生は、阿波おどりの誕生に匹敵するくらいの出来事になると信じています。前案の復活も含め、阿波おどりのような、世界に誇れる素晴らしいホールの誕生を心より期待しています。
2	文化芸術立県 とくしまについて	○後藤田正純徳島県知事は徳島新未来創生アドバイザーを通じて、徳島県を「日本のベートーベン第九番交響曲の聖地」にしなければならない。併せて、徳島交響楽団のプロの交響楽団化を行い、日本オーケストラ連盟の正式な正会員になる。 ※ 全国のプロの交響楽団⇒札幌交響楽団、仙台フィルハーモニー交響楽団、群馬交響楽団、山形交響楽団、東京交響楽団、千葉交響楽団、名古屋フィルハーモニー交響楽団、大阪交響楽団、広島交響楽団など ※ 東京藝術大学に東京藝術大学フィルハーモニア管弦楽団が創設されている。
3	とくしま文化観光の推進について	○徳島県文化振興課は、吉野川・三大あわ文化主要エリアの拠点に、徳島県立近代美術館・大塚国際美術館・鳴門市ドイツ館が含まなければならない。 ※ 徳島県立近代美術館は「徳島の美術の殿堂」、大塚国際美術館は「日本のルーブル美術館」⇒せとうち美術館ネットワーク ※ 鳴門市ドイツ館は、鳴門市とドイツとの友愛の歴史と友愛の遺産⇒「バルトの楽園」の舞台 ※ アート・ツーリズムの推進並びにヒストリー・ツーリズムの推進